

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

平成29年度第3回美里町生活支援体制整備協議会

2 開催日時 平成29年12月22日(金)午後3時から午後5時まで

3 開催場所 駅東地域交流センター 大会議室

4 会議に出席した者

(1) 委員 小野俊次会長、佐藤美佳副会長、角田フミコ委員、伊藤秀司委員、
佐々木義夫委員、佐藤俊幸委員、浅野恵美委員

(2) 事務局 相原浩子、横山太一、永沼威雄、高橋ゆかり

(3) その他

5 議題及び会議の公開・非公開の別

議題

(1) 報告

平成29年度美里町高齢者福祉に関するアンケート調査結果・在宅介護実
態調査結果報告について

登米市迫圏域協議体のボランティア山の視察研修について

地域福祉力UP情報交換会振り返りと課題把握

生活支援コーディネーターの活動報告

前回の振り返り(第2回生活支援体制整備協議会・編集会議)

(2) 協議事項

地域資源の発掘～「おげんきですか。」の反響と次号に向けて～

宝物の見える化・見せる化～地域の宝物発表会の開催に向けて～

地域別基礎情報一覧について

会議の公開・非公開の別

公開

6 非公開の理由

7 傍聴人の人数

0人

8 会議資料

別紙のとおり

9 会議の概要

(1) 議題の審議結果又は今後の対応

地域資源の発掘～「おげんきですか。」の反響と次号に向けて～

- ・「いい写真だったね」「見たよ」といった声が周囲から聞かれ、掲載された活動にも良い意識の変化があった様子。今後も、地域の支え合い活動を毎号掲載していく。
- ・住民と専門職と一緒に地域づくりをするため、地域の活動だけでなく、福祉事業所等の専門職の活動も紹介するとよい。

宝物の見える化・見せる化～地域の宝物発表会の開催に向けて～

- ・地域の宝物（支え合い活動）を振り返り、意識化してもらうことで活動継続への意欲が高まることや、住民が他地域の支え合い活動を知ることによって波及効果が生まれることを目標とする。
- ・住民主体の生活支援や支え合い活動へのきっかけとなるよう働きかける。

地域別基礎情報一覧について

- ・生活保護世帯数の他に、福祉制度の狭間にいる住民の人数も把握できたら良い。
- ・平成31年4月の完成を目標に、収集した地域情報を整理して、住民との話しあい等に活用していく。

(2) 詳細な意見

小野会長	今年度は6月から協議会が始まり、地域の代表者が集まって話し合いを重ねてきました。今回は3つの協議事項がありますので、よろしくお願ひいたします。
高橋	次第2 署名委員の選出ですが、どういった選出方法にするか、みなさんにお計りしたいと思います。
一同	事務局一任。
高橋	それでは、佐々木義夫委員と佐藤美佳委員を推薦します。
一同	賛成。
高橋	佐々木委員と佐藤美佳委員に署名委員をお願いします。次に、次第3の報告に入ります。報告(1)平成29年度日里町高齢者福祉に関するアンケート調査結果・在宅介護実態調査結果報告について、地域包括支援センターの横山さんより報告いたします。
横山技術主査	<p>平成29年度美里町高齢者福祉に関するアンケート調査・在宅介護実態調査は、平成29年の1月に要介護認定を受けていない町内の在宅高齢者の方を対象にアンケートを郵送して回答を頂いたものです。第7期高齢者福祉・介護保険事業計画を策定するために行った調査です。調査結果について報告いたします。</p> <p>要介護認定を受けていない3,989人に調査票を郵送し、3,033の方に回答して頂きました。回答率76%という高い回答率でした。</p> <p>昨年と比較した外出頻度は、「とても減っている」と「減っている」を合わせると約25%の人が減少していました。</p> <p>「外出を控えていますか？」という質問に対しては、21.7%の方が「はい」という回答でした。その理由は、「足腰などの痛み」が53.9%、それ以外にも「交通手段がない」や「外での楽しみがない」といった身体的理由以外の社会的理由も含まれているようです。</p> <p>次に(2)の社会的役割について、「友人の家を訪ねていますか？」との質問には「いいえ」が32.9%、「趣味はありますか？」の質問には、「思いつかない」と「無回答」が約42%、「生きがいはありますか？」の質問には「思いつかない」と「無回答」が約50%という結果でした。</p> <p>次に(3)地域での活動については、健康づくり活動や趣味等のグループ活動の参加意向について質問しました。「是非参加したい」「参加しても良い」という方が6割以上でした。健康づくり活動や趣味等のグループ活動の企画・運営参加意向については、「是非参加したい」「参加しても良い」という方が4割程度でした。</p> <p>趣味や生きがいがいないという人がいる一方で、きっかけがあれば健</p>

	<p>康づくり活動等に参加したいと思っている人も一定数いることがわかりました。また、企画・運営側に主体的に関わってくれる人がいる可能性も見えてきました。</p> <p>次に(4)支え合い・たすけあいについて、「私の心配ごとや愚痴を聞いてくれる人・聞いてあげる人」については、配偶者・子・兄弟姉妹や親戚も多いですが、「近隣」が約20%、「友人」については40%でした。その中でも、「よく会う友人・知人はどんな関係ですか？」の質問では「近所や同じ地域の人」が70.3%、「趣味や関心が同じ友人」が36.4%と多かったことから、家族以外での支えあいがあることや近所・同じ地域での関わりが大切になってくることが読み取れました。</p> <p>次に(5)日常生活については、「日常生活で不便に感じていること」については「特になし」が73.7%と最も多いですが、次に多いのが「外出(通院等)」10.7%、「買物」9.2%でした。また、日常生活における不安としては、「自分や家族の健康について」が上位でした。また、災害時や生活費に対する不安も聞かれました。</p> <p>在宅介護実態調査の結果についてですが、こちらも同じ時期に要介護認定を受けている高齢者を対象にアンケートを行い、回答率72.1%でした。介護保険サービス以外の支援サービスについて「これから必要となるサービスは何ですか？」との問いに「移送サービス」が22.5%、「外出同行(通院、買物など)」が13%、「見守り・声かけ」が12.3%でした。</p> <p>また「サロンなどの定期的な通いの場」が6.2%でした。「主な介護者が不安に感じる介護」では「認知症状への対応」が41.2%、「外出の付き添い、送迎など」についても31.5%、「夜間の排泄」「入浴・洗身」等の身体介助と続きました。町民の皆さんの悩みや、いろいろな活動に参加していることがアンケートを通してわかりましたので、報告させていただきました。</p>
小野会長	このアンケートは65歳以上が対象ですか？
横山技術主査	そうです。
小野会長	男女の比率は？
横山技術主査	要介護認定を受けていない方への調査は、女性の方がやや多いです。
佐々木委員	65歳以上の高齢者ではなく、75歳以上の高齢者に対してアンケートはできないのでしょうか？65歳はまだまだ現役ですよ。本来、介護が必要になってくるのって75歳くらいだよ。
横山技術主査	そうですね。アンケートに答えた方のうち75歳以上がどれ位の割合だったか、年齢別の回答は抽出していませんでした。

小野会長	結果が相当変わるかもね。65歳から75歳の方は、まだ元気だからね。敬老会も75歳以上を対象としているからね。65歳以上が高齢者というのは、ちょっとひっかかるよね。75歳以上の人のアンケートをとってみると、違う結果が出るかもね。
浅野委員	「地域での活動企画や運営に参加したい」の回答も違ってくると思います。
佐々木委員	「是非参加したい」と回答している人もいるし心強いよね。
小野会長	逆に「参加したくない」等の具体的な理由も聞きたいね。
佐藤委員	より詳細に分析できると、対策と傾向が見えてくると思います。
高橋	<p>それでは、報告(2)の登米市迫圏域協議体のボランティア山の神視察研修について報告します。登米市でも登米市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査を実施しました。「今後、在宅で利用したいと感じるサービス・取り組み」についてのアンケート調査の結果、外出支援の希望が最多だったため、外出支援をしているボランティア山の神の活動について研修したいとの要請が登米市迫圏域協議体からありました。</p> <p>視察研修は11月29日に美里町中央白寿館で開催され、美里町生活支援体制整備協議会からは、小野会長と佐々木委員に出席いただきました。</p> <p>「住民による助け合い活動 通院・買物送迎事業」というテーマについて、ボランティア山の神の熊谷会長さんから活動のきっかけと組織化の経緯、活動内容、効果と課題、今後に向けた展望等をお話いただきました。宮城県内でも住民主体の移動支援活動は珍しいため、美里町で生まれた大きな宝を美里町生活支援体制整備協議会でもバックアップしながら、新たな支え合いが他の地域でも生まれるきっかけとなるよう、地域へと働きかけていきたいと思います。</p> <p>続きまして、(3)地域福祉力UP情報交換会振り返りと課題把握について、永沼より報告いたします。</p>
永沼	<p>資料の2ページをご覧ください。不動堂地区社協、合同開催した南郷11地区社協の情報交換会について報告します。情報交換会のテーマは、「地域の課題を再点検」ということで、高齢者等の暮らしと生活支援について行政区ごとに分かれて話しあいました。</p> <p>地域の現状と課題について、行政区等でできることや、地区社協(小学校区)でできることについて情報交換を行いました。</p> <p>現状と課題については「通院や買物における移動手段の困りごと」や「買物はできるが荷物を持って帰るのが大変」ということであったり、手伝ってと言えない方がいたり、「高齢者世帯が多く支え手が少な</p>

い」「不燃ごみや資源ごみが重くて収集所まで持って行けない」「健康だが閉じこもりがちな高齢者が多い」「身体的理由等で行事などへの参加を家族に止められている」といった意見も挙げられました。

「行政区等でできること」については、見守りと声掛けを意識して行う、今ある活動を意識して広げていく、自治会等の組織でゴミ出しの手伝いがないか検討する等が挙げられました。実際に素山町では隣近所が声を掛けあってゴミ出しを行っているという話も聞きました。また、気兼ねなく頼める有償サービスの仕組みを整えてはどうか、身近な地域で福祉部を新設して活動を始めてはどうかといった意見も出ていました。

「小学校単位でできること」については、地域のことを話し合い、コミュニケーションや課題発見の気づきを得られる場が必要だということや、5年・10年・20年後を見越した自分の地域がどうなっているのかを大きな範囲で話し合うことが必要だということや、手伝って欲しい人と手伝える人を繋ぐ仕組みと継続的に支える組織作りが必要だという意見がでました。

続いて、4ページをご覧ください。南郷地区11地区社協合同の情報交換会です。「安心して生活できる福祉のまちづくり」をテーマに話し合いました。お互いさまの関係づくり、住民同士の接点づくり、軽易な生活支援、生きがいづくりと交流の4つについて話し合われました。

深い付き合いは減っているようだが交流はあるということ、家の中まで入って欲しくないと思える人が増えてきているということや、地域の支え合いと企業・事業所・制度・サービスを上手に利用していくこと、子どもから大人までの福祉教育の推進が必要であることの見解が出ました。

住民同士の接点づくりについては、「お茶飲み会」は高齢者のイメージが強く、まだ参加しないという声も出てきているようです。また、人の集まりへの参加が苦手な方もいますし、体調の関係で参加できない方もいますので、個別に声掛けを続けられる関係を築くことが大切だという意見もありました。

小グループの趣味やサークルなどの仲間づくりの機会を増やすというところでは、気の合う仲間同士でのお茶飲みや集まりによる関係づくりが増えていくのではないかといった意見が出ました。

それから軽易な生活支援というところで、ゴミ出し・通院・用足しが大変だという意見が多かったです。また、親族との関わりが希薄、どこまで声を掛けていいのかわからない、手伝ってと言える人は少な

	<p>いが声をかければ手伝う人はいる、普段の支え合いと制度・サービスを上手に使う、見守りや生活支援の体制づくりの検討も必要といった意見が出ました。</p> <p>生きがいつくりと交流について、地域では全世代を対象とした交流の機会づくりは難しい、高齢者にとって生きがいつくりは大切、「きょういくときょうよう」(今日用事があること・今日行くところをつくること)が生きがいつくりにつながる、といった意見が出されました。今年度、6エリア全てで情報交換会を開催したいと思っておりますが、まだ4エリアのみの開催となっております。今年度2月に情報交換会の合同報告会を企画しております。以上です。</p>
高橋	<p>また、情報交換会の開催が決まりましたら、委員の皆様にも案内しますので参加をお願いいたします。</p> <p>報告(4)生活支援コーディネーターの活動報告に移ります。5ページをご覧ください。「気軽に立ち寄れる、近くのコンビニ」という題名で「おげんきですか。」にも掲載させていただいた集いの場です。伊藤委員からの情報があり、訪問させて頂きました。ほぼ毎日、イートインコーナーでお茶飲みをしているということでした。店員さんも気にかけているようで、「来ないと心配になるの」といった声も聞かれました。「おげんきですか。」掲載後は、店員さんが記事の切り抜きをイートインコーナーに貼って下さいました。</p>
小野会長	<p>男性2人も毎日来ている人がいるみたいだね。ウォーキングの帰りに寄るみたいだね。つながりが増えることはいいことだね。</p>
高橋	<p>そうですね。続きまして、関根の元気クラブという任意のグループを訪問しました。こちらは、北浦第一長寿会という老人クラブが原型で、老人クラブの解散をきっかけに元気クラブを発足したようです。地域交流や地域貢献を目的に、月1回のお茶飲み会と年2回の集会所の清掃を行っているということです。12月に清掃活動をするのことから訪問してきました。</p> <p>参加者の中には「仙台から美里町に転入してきて地域とのつながりがなかったが、元気クラブに加入したことで地域の仲間に入れた」という声や「地域の構成員の一人になれた」という声も聞かれました。買い物に困っているメンバーも多いということから、これから生活支援についても検討していきたいと会長さんが話されておりました。</p> <p>続きまして、中組の中組友の会に訪問させていただきました。こちらも任意の集まりです。北浦第二長寿会という老人クラブの女性メンバーを中心に「もっとおしゃべりしたい」という思いと、夫を亡くさ</p>

	<p>れたメンバーの「お家で誰かと楽しく過ごしたい」という思いが相まって誕生した集まりです。お茶飲みをしているだけでなく、各自が元気でいられるよう、日常の生活で工夫していることなどを教えあっている姿が印象的でした。以上です。</p>
高橋	<p>続いて、報告（５）前回の振り返りに移ります。前回の協議事項では、「協議会のしくみと役割を整理・共有～何のために、地域の宝探しをするのか～」について協議していただき、地域の支え合い活動という宝物のイメージについて共有することができました。今後の展望について、みんなが気軽に集まれる場や少人数で集まれる場が多くあることやひとりひとりの力を発揮できる場があると、やる気や生きがいにつながるのではないかといった意見が出されました。</p> <p>課題としては、集まる場所はあるが参加したくない人や参加できない人に対してどうするかというところで、諦めずに関わり続けることが重要であり、参加できない人に関しては周囲の理解と協力が必要であるといった意見が出されました。地区によって地域福祉への意識や実践の仕組みに差があるので、地区社協情報交換会等を利用して地域の魅力や地域課題への気づきを増やし、地域の福祉力を高めていくことが必要だという意見が出されました。</p> <p>今年度の広報の啓発・発行については、宝物である「地域の支え合い活動」を地域全体へ啓発し広めていくことを目指して協議し、広報紙のイメージやページ数など詳細についても話し合うことができました。</p> <p>生活支援コーディネーターの業務については、ニーズ把握のため地域住民の集いの場を訪問して情報収集を行うなかで、様々な種類の「支え合い活動」という宝物が既に多く存在していることを確認できました。今後も、地域資源調査と把握に努め、行政区や小学校区ごとの地域カルテの作成に取り組んでいきます。</p> <p>生活支援体制整備協議会については「協議会の仕組みと役割を整理・共有」ということで、住民部会（地域福祉力UP情報交換会）、専門職部会（多職種連携ワーキング）を並行して行い、住民及び専門職から見える現状と課題について情報共有しながら、連携・協働のあり方やより良い地域づくりに向けた取り組みなどを今後検討していくこととなりました。また、協議会全体として「地域の宝物」についてイメージを共有することができ、住民ひとりひとりの宝物が充実することで、いつまでも地域の中で健康に暮らしていけるのではないかと、という協議会の目指す地域づくりの方向性を確認できました。</p>

	<p>今後は、その方向性を具現化できるような仕組みと取り組みについて、生活支援コーディネーターや協議会委員をはじめ、様々な分野の活動実践者や活動の場から情報把握に努め、協議を進めていきたいと思います。今年度の広報紙発行と啓発については、様々なかたちの地域活動や集いの場を広報紙発行によって「見える化」し、普段の集まりやお茶飲み場の場が支え合いを築く機会となっていることや、地域が人のつながりで成り立っていることに気づく機会になるよう進めていく、ということを協議しました。</p> <p>11月8日には、広報紙発行に向け第1回編集会議を開催しました。当日は広報紙を委員の皆さまに校正いただき、タイトルや内容、レイアウト等についても協議いただき、その結果「おげんきですか。創刊号」として12月1日発行となりました。ご協力ありがとうございました。以上です。</p>
佐藤委員	<p>今後の啓発として広報誌ができたところですが、これからの高齢者はインターネット等も使える方が増えますし、離れて暮らす息子さん等が見れるように広く発信していくのもいいのかなと思います。</p>
浅野委員	<p>美里町社協のホームページにも載せておりますが、遠くにいる親族にも、自分の家族が隣近所とどう関わりながら暮らしているのかを見ていただきたいですね。</p>
相原技術主幹	<p>健康福祉課のホームページにもリンクを貼って、いつでも見れるようにしてもいいですね。</p>
浅野委員	<p>そうですね。配食サービスや生きがいデイサービスでは、利用者向けにお便りを配っていますが、なかなか家族の手に届かないので、ぜひ家族にも見ていただきたいです。</p>
佐藤副会長	<p>J Aでは、個々の対応ではありますが、利用者さんがあまり家族と交流がない場合などは、お便り等で対応しています。こちらから発信しないと、つながるのが難しいのが現状です。</p>
浅野委員	<p>いろいろな方法で、幅広い世代に発信できるといいですね。</p>
高橋	<p>それでは、次第4．協議事項に移ります。ここからは、小野会長に進行をお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。</p>
小野会長	<p>それでは、協議に入ります。地域資源の発掘～「おげんきですか。」の反響と次号に向けて～ということで事務局からお願いします。</p>
高橋	<p>皆さまのご協力のもと「おげんきですか。」創刊号を発行できましたが、委員のみなさんの周りでは、何か反響などがあったかお聞きしたいと思います。</p>
佐々木委員	<p>「見たよ」という声が聞かれたので、目は通していただけたようです。</p>

小野会長	私の地域でも、お茶飲み会の時の表紙の2人がいたからだけど、話題になっていたよ。その場で、広報誌の内容についてはあまり聞けなかったけれど、創刊号ということで手にとって見てくれた人は多いんじゃないかな。写真のインパクトは大きいようだね。
浅野委員	表紙になったご家族にも喜んで頂いて、A4サイズで印刷してお渡ししました。
小野会長	写真って嬉しいんだよね。
浅野課長	青生地区に行った際、「おげんきですか。」を見た方が「青生は載ってなかったね。」と話されました。「今度、行くからね」とお話ししましたが、見てくれているんだと実感しました。
小野会長	同じ地区だけでなく、まんべんなく載せたほうがいいよね。
佐藤副会長	次はどの地区かなと楽しみにになるといいですよ。
小野会長	写真をうまく使いながら、徐々に印象に残るように工夫していくことが大事だね。こういうのは慌てず・急がずが大事。まだ創刊号だし、反響は少しずつ聞こえてくるかな。次号に向けては、何かありますか。
高橋	今回は、3つの活動を紹介しましたが、次号もお宝紹介として地域の活動を紹介していきたいと思います。
小野会長	そうだね。今後、そこがメインになってくるのかな。
高橋	生活支援についても啓発していけたらいいと思います。
浅野	先ほど、横山さんが話していたアンケートの結果についても、地域へ伝えてみるのも良いですね。
佐藤副会長	雪かき、ゴミ出しなどの事例があれば、紹介するのもいいですね。地域でこんなネットワークができていくという啓発にもなりますね。
佐々木委員	その活動を見て、自分達の地域でもやってみようというきっかけにもなるね。活動している人達にとってもいい刺激になるしね。
浅野委員	一方で、地域だけでは肩の荷が重いかと思うので、例えば「介護事業所が地域の区長さんに声をかけて、ゴミ出しの支援について何かできないか相談をした」という事例なども紹介できれば、地域だけでなく事業所や専門職も地域の力になりたいと思っているというメッセージにもなるよね。
相原技術主幹	専門職のコーナーみたいなのもちょっとあるといいですね。
佐藤副会長	J Aでも介護保険外サービスとして、ゴミ出しを支援していますが、ゴミ集荷の時間は決まっていますよね。早朝なのでヘルパーもあまり活動できないため、利用者の自宅から直接クリーンセンターへ持っていくようにしたら、サービス事業所がそういったことをやってはいけないとクリーンセンターから言われました。

	<p>今後は、集荷時間の緩和等をケアマネジャーや事業所が区長さん等と話し合いをしながら、融通を利かせていただくよう配慮してもらおうといったような働きかけが必要になってくるのかなと思います。</p>
佐藤委員	<p>地区によって、ゴミが荒らされないように注意しながら配慮が必要ですね。</p>
角田委員	<p>地区によっては、厳しいところは厳しいですからね。</p>
浅野委員	<p>自宅の門のところにゴミ袋を置いておくと、近所の人が集積所まで持っていってくれる地域もありますね。</p>
小野会長	<p>そういったボランティアもいいね。</p>
佐藤副会長	<p>介護事業所の支援が入ったことで、その人のつながりが切れるようなことは招きたくないの、地域でそういった取り組みができるのであれば、そのような活動を掘り起こしていく必要があるのかなと思います。</p>
小野会長	<p>では、そういった活動も掲載しながら、地域の宝物も紹介していく方向でいいでしょうか。</p>
浅野委員	<p>そうですね。また、地域だけでなく専門職も地域づくりについて考えているといったメッセージを伝えていきたいですね。例えば、今回は 事業所ですといった紹介もいいですね。</p> <p>先日、「すこやかねっと」という町内の介護事業所等に集まっていた研修会で話し合いました。それぞれ規模や業務も違いますが、地域の役に立ちたいと思っている事業所職員さんが多いと思いました。</p> <p>「すこやかねっと」も長年続けていますが、年々参加率が上がっていて職員さんの意識も上がっているのかなと思います。地域だけにがんばれといっているわけではなく、専門職もがんばっているというところを発信できたらいいかなと思います。</p>
小野会長	<p>そうですね。それでは（２）宝物の見える化・見せる化～地域の宝物発表会について～について協議します。事務局お願いします。</p>
高橋	<p>１４ページをご覧ください。「お茶っこ会だよ！全員集合！！～あなたの地域の支え合い活動～」を企画しました。お茶っこ会等の活動の意味や効果を意識化してもらい、今後の活動継続へのモチベーションとしてもらうこと、周囲が活動を理解することで他地域への波及を促すこと、生活支援や支え合い活動へのきっかけとなることを目的としています。</p> <p>内容については、仙台白百合女子大学准教授の志水先生に講演をして頂き、その後、「ハイリョする町、ハイジヨする町」という生活支援コーディネーター研修用の冊子に載っている漫画の内容を基にした寸</p>

	<p>劇を、委員の皆さんで演じていただこうと思っておりました。</p> <p>そして、最後に地域で実際に活動している実践者の方をゲストに向かえ、志水先生との対談を通しながら活動の紹介や課題などをお話ししていただこうかなと考えております。3～4団体の実践者にお話しを聞こうと思いますが、それぞれ違ったタイプのお茶っこ会を紹介した方がおもしろいかなと思っていました。地域の応援団なども呼んでいただき、楽しく活動を紹介できたらいいなと思います。このような方向で進めていきたいと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
佐藤委員	いいと思います。開催前に、新聞社などに取材に来てもらうように声掛けるといいですね。
小野会長	そうですね。
高橋	大和町でも地域のお宝発表会として来年の1月12日に開催するそうです。この日は5団体紹介するそうです。
永沼	他市町村の職員が演じた「ハイリヨする町、ハイジヨする町」の動画が準備できたので、参考までにご覧ください。
一同	～動画を鑑賞～
小野会長	初めて見たけど、皆さんご協力お願いします。それでは、(3)地域別基礎情報一覧について事務局からお願いします。
高橋	17ページをご覧ください。各地区社協単位で情報を集め、今後、地域で話し合いを行う際などに活用していきたいと思っています。平成31年4月の完成を目指したいと思いますが、フォーマットについて、こんな情報があったらいいなとか、ここはいらないかなという項目があれば参考にさせていただきます。
佐藤委員	要介護認定者数については、要介護度までは不要だと思います。
浅野委員	17ページについては、毎年、美里町社協の地域福祉係でデータを集めて整理し、地域の概要として地域福祉力UP情報交換会などで利用していました。
佐藤委員	生活保護を受けていないが、生活に困窮しているボーダーラインの人も把握したいよね。そういった人こそ支え合いが必要だよね。把握するのは難しいとは思うけど。それから、情報を集めるのはいいけれど、どのように活用するか目的がないとね。
浅野委員	この情報を整理するにあたって、ボーダーラインの人も把握することができるとは思いませんよね。活用する目的は検討が必要ですね。
小野会長	それでは、要検討ということによろしいでしょうか。
一同	はい。
小野会長	他にご意見が無ければ、これで終了とさせていただきます。

高橋	では、閉会とします。佐藤美佳副会長から一言お願いします。
佐藤副会長	たくさんの意見を頂き、ありがとうございます。「おげんきですか。」も創刊号を発行し、3月にも啓発事業を行うということで、協議会も走り出してきたなという実感があります。今後も、みなさんのご協力お願いいたします。

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

年 月 日

委員 _____

委員 _____